



トップ > コラム > 野球部訪問 >

中央学院高等学校(千葉)「甲子園出場を常に狙えるチームになるには選手がお手本となる存在になること」【後編】

第417回 中央学院高等学校(千葉)「甲子園出場を常に狙えるチームになるには選手がお手本となる存在になること」【後編】

2017年02月20日

amazon.co.jp

印刷する B! 0 イイネ! Pocket 2 ツイート いいね! 220 G+ 0



【目次】(ページ下部のフォトギャラリーもチェック！)

- [1]それぞれのコーチが指導で意識していること
- [2]秋の関東大会に進出できた要因と課題になったこと
- [3]意識レベルはかつて千葉大会3連覇を果たした市立船橋のように...

■前編「監督、コーチ、選手が一体となって目指す初の甲子園」から読む

前編では中央学院の相馬監督にチーム作りや方針について語っていただきました。後編では、コーチがどんな思いで指導をしているのか、そして秋の大会を経験して課題になったこと、目指す方向性について追っていきます。

それぞれのコーチが指導で意識していること

中央学院のBチームを指導するのは、同じく中央学院OBで、Bリーグ・新潟アルビレックスBCのプレー経験を持つ羽豆 恭

コラム

- ▶ 第417回 中央学院高等学校(千葉)「甲子園出場を常に狙えるチームになるには選手がお手本となる存在になること」【後編】
- ▶ 第416回 中央学院高等学校(千葉)「監督、コーチ、選手が一体となって目指す初の甲子園」【前編】
- ▶ 第415回 大阪桐蔭高等学校(大阪)「『2016～2017年型』大阪桐蔭、全国制覇への風土づくり」【後編】
- ▶ 第414回 大阪桐蔭高等学校(大阪)「『2016～2017年型』大阪桐蔭、その序章」【前編】
- ▶ 第413回 彦根翔陽・彦根翔陽館(滋賀)「投打に個性派揃いの連合チーム」
- ▶ 第412回 県立益田清風高等学校(岐阜)「飛騨から初の甲子園へ」【後編】
- ▶ 第411回 県立益田清風高等学校(岐阜)「飛騨の県立校が起こした秋の旋風」【前編】
- ▶ 第410回 県立いなべ総合学園高等学校(三重)「野球ノートに書いた試合の振り返り方」
- ▶ 第409回